

会議録（要旨）

					記録者 黒木 渚		
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員	
件 名	令和6年度第3回龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
日 時	令和7年1月20日（月）午後1時30分～午後2時						
場 所	龍ヶ崎市役所 5階 第1委員会室						
主 催 者	龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
出 席 者	〔龍ヶ崎市市民協働推進委員会委員（6名）〕 福井 一喜 委員長、深澤 幸子 副委員長 池田 修 委員、中館 修希 委員、吉田 恵 委員 島村 宏之 委員 〔事務局（3名）〕 鴻巣 倫子 課長、塚本 裕紀 課長補佐、記録者						
欠 席 者	3人						
傍聴人の数	2人						
会議の内容	議 題 （1）市民活動サポート補助金について （2）まちづくりポイント制度について						
情報公開	<input type="checkbox"/> 公 開	非公開（一部非公開を含む）とする理由				年 月 日	
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開	公開が可能となる時期 （可能な範囲で記入）					

発言者	発言の内容（要旨）
福井委員長	<p>本日の委員会に際しまして、傍聴の申し込みがありましたのでこれを許可しております。ここで、傍聴者に一言申し上げます。</p> <p>傍聴者は、「傍聴注意事項」を遵守して、静粛に傍聴されますようお願いいたします。</p> <p>ただいまより、令和6年度第3回龍ヶ崎市市民協働推進委員会を開会いたします。なお、本日は委員総数9名のところ、5名の委員が出席されており、定足数に達しておりますので、会議が有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>はじめに会議録の作成に当たり、会議録署名人2名の指名をさせていただきます。今回は、島村委員と深澤副委員長をお願いいたします。</p> <p>おふたりには本日の会議録ができましたら、内容を確認していただき、会議録に署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、さっそく議事の進行をさせていただきます。</p> <p>はじめに「市民活動サポート補助金について」です。この件について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	— 事務局説明 —
福井委員長	<p>ただいま、事務局から説明がありました。この補助金につきましては、適正な補助金運用であるのか、また補助金の申請状況や動向確認など定期点検を行うこととなっております。</p> <p>今回は、事務局から説明があった通り、令和6年度補助金につきましては、令和7年度に開催する委員会で定期点検を行っていただく予定となっております。</p> <p>また、令和7年度募集要項の変更点について事務局より説明がありました。この件について何かご質問等がございましたら、お願いいたします。</p>
深澤副委員長	<p>今年度も補助金の申請があり良かったです。令和7年度も申請件数が0件とにならないよう工夫していただきたい。</p> <p>また、現在の補助金制度では、行政提案型の事業はあるのでしょうか。</p>
事務局	協働事業提案制度では、行政提案型の事業がありましたが、制度の見直しにより、令和5年度からは現在の新制度で支援しております。
深澤副委員長	これからも市職員による事業提案、補助金活用は行わない予定でしょうか。新人研修など、職員向けに取り入れても良いのではと思います。
事務局	<p>現在の制度は、委員会にて審議いただき、市民活動団体を支援する内容に変更した経緯があります。</p> <p>制度の内容は数年ごとに見直すため、見直しの際、委員の皆さまに検討していただければと思います。</p>
中館委員	補助金申請の相談はしたものの、申請までには至らなかった団体はありますか。

事務局	団体に制度説明や聞き取りを行う中で、申請要件に当てはまらず、申請されなかったケースはあります。
中館委員	申請手続きが手間だから、という理由で申請されないケースは無いのでしょうか。
事務局	申請時に必要な書類の1つである、定款や会則の写しを作成しておらず、申請されていないケースがあります。こちらの団体は、申請に向けて定款の作成を検討しているとのことでした。
中館委員	申請に至らなかったケースとしては、申請要件に当てはまらない場合がほとんど、ということですね。要件に当てはまっているけれども、手続きが煩雑、手間なために申請されない場合は少ないと見受けられます。
吉田委員	<p>社会貢献をしたいと考えているが、さまざまな理由により申請に至っていない方は多くいるのでは、と感じています。</p> <p>以前に「龍ヶ崎市 SDG s パートナー交流会」に参加したことがありますが各パートナー企業・団体と意見交換をする中で、さまざまなアイデアが生まれました。</p> <p>補助金制度の説明会兼交流会を開催すると良いと思います。補助金活用を考える方同士が連携することにより、事業実施も実現しやすくなるのではないのでしょうか。</p>
福井委員長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>事務局による事前相談の対応時に確認作業や団体へのアドバイスなどがしっかり行われていることが分かりました。市職員の事務負担が過度とならない範囲で今後も行っていくことが大事だと思います。</p>
島村委員	吉田委員の発言にありました、補助金制度の説明会兼交流会は開催した方がよろしいのでしょうか。参加者が集まるようであれば、現在の報告会に追加して開催する価値があると思います。
事務局	現在の補助金制度は令和5年度の途中から開始しており、3年ごとに定期点見、見直しを行う予定です。そのため、来年度の委員会では、制度の課題を洗い出し、委員の皆さまよりご意見をいただければと思います。
福井委員長	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。</p> <p>次に、「まちづくりポイント制度について」です。この件について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	— 説明 —

福井委員長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、デジタル媒体に変更するにあたり、前回の委員会では事務局案としてLINEを活用してはいかがという内容と一方でLINEには課題がある旨の内容でした。</p> <p>事務局でLINE活用について精査したところ、システム構築について課題があり、アプリによる制度設計を進めていきたいということでした。</p> <p>アプリにつきましては、事前に中館委員に相談を行い、進めているということです。中館委員、ありがとうございました。</p> <p>委員の皆さんから何かご質問等がございましたら、お願いいたします。また、意見交換としても発言願えればと思います。</p>
吉田委員	<p>前回の会議では、デジタル化に伴い、ポイントの不正取得の可能性について懸念がありましたので、その点を注意して進めていただきたいです。また、アプリ開発にあたり、運用時の市と事業者の役割を明確化することやポイント交付対象となる活動について考えた方が良くと思います。</p> <p>リサイクルに協力した方など、時間や場所を問わない活動の場合にポイントを交付するのであれば、無人でも交付できるようにする仕組みづくりが必要だと思っております。</p>
事務局	<p>制度設計につきましては、現在の課題を踏まえて精査する予定です。また、ポイント交付対象活動は委員会にて今後、審議していただきたいと思っております。</p>
吉田委員	<p>ポイントの交付方法も1人につき1ポイントなのか、1端末につき1ポイントなのか。スマートフォンを所持していない子どもの対応など、よく考えて開発していただきたいです。</p>
中館委員	<p>ポイント二重交付の抑制はシステム側で対応できますが、アプリ開発の費用はかかってきます。また、システムの運用について、業者側へ丸投げすることも可能ですが、内容が特殊なため、最低限必要な対応フローを市側でまとめる必要はあるかと思っております。</p> <p>家族に対してのポイント交付は難しく、端末が3台ある場合は、3人分のポイントが交付されてしまいます。システムでの限界はどうしてもあります。この点は、職員などの人員で対応する方が良く考えます。</p>
深澤副委員長	<p>デジタル化に対しては反対ではないが、スマートフォンを所持していない方への対応はどのように考えていますか。</p> <p>コミュニティセンターの予約方法もデジタル化の予定と聞きましたが、「スマートフォンを持っていないので不安だ」という声も聞きます。</p>
事務局	<p>デジタル化に移行するにあたっては、市民全体がデジタル化に取り残されないような制度設計やサポートなどを検討したいと思っております。</p>
深澤副委員長	<p>高齢者の方が社会参加できる体制づくりが大事だと思いますので、検討のほどお願いします。</p>
吉田委員	<p>デジタル化に対応できない方に対しては、窓口でサポートしていくのが良いと思います。</p>

事務局	<p>深澤副委員長よりお話のありました、コミュニティセンターの予約ですが、現在は2か所のコミュニティセンターで試行的にLINEでの予約を行っています。来年度は、残りの施設もLINEでの予約を開始する予定です。</p> <p>コミュニティセンターは高齢者の方の利用が多いため、サポートが必要であると考えており、今回のLINE予約において、利用者への説明会や窓口での支援を行っています。</p> <p>ポイント制度のデジタル化についても、できる限りのサポートを行っていきたいと考えています。</p>
中館委員	<p>吉田委員の発言のありました代理申請ですが、代理申請も可能であると周知すると、申請のハードルが下がって良いと思います。</p> <p>また、操作説明の対応を全て市職員が対応することは大変かと思います。デジタル庁のデジタル推進委員制度というものがあり、事実上のボランティアが色々な自治体で進んでいるデジタル化の問題に対して支援していますので、デジタル推進委員に協力してもらい、年に数回程度、説明会を開催しても良いかと思います。</p>
福井委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私から事務局へ質問ですが、なぜLINEの活用ではだめだったのでしょうか。</p>
事務局	<p>市職員による、システム構築に課題があると判断しました。</p> <p>LINEの活用には担当課でシステムを構築する必要があり、専門知識を有していない職員が調べながら作り込むことは難しいと考えています。また、仮に運用できるようになった場合でも、人事異動により担当者が変更となった際、後任がシステムを理解するまでには時間がかかると想定されます。</p> <p>このような課題を踏まえ、専門業者へアプリ開発を依頼した方が良いと判断しました。</p>
福井委員長	<p>LINEだと業者に依頼せずにシステム構築できる、いわゆるノーコード開発だと思いますが、その構築作業が現実的に難しいということですね。</p> <p>インクルーシブの視点では、LINEは多くの方が利用しているアプリであるため、入口としては良いというメリットがありました。</p> <p>独自のアプリとするのであれば、使いやすいアプリを開発していただくことが重要だと一委員として思います。アプリ自体が使いにくいと、デジタル化は良いが、このアプリは使いにくいから利用しない、というケースが出てくると考えられます。この点については、中館委員にも今後、アドバイスをいただきながら進めていければと思います。</p> <p>池田委員のご意見はいかがでしょうか。</p>
池田委員	<p>スマートフォンを持っていない人というのは想定していなかったので、紙での運用も必要なのかなと思いました。</p> <p>スマートフォンを持っているがデジタルに不慣れなために使用できない人に対しては、操作方法を教える教室などを開催して対応することが良いと思います。また、操作方法を教える人はボランティアとして協力してもらい、ポイントを交付するのも良いのではと考えます。</p>

吉田委員	<p>池田委員の発言にありました、ボランティア活動として操作方法を教える、というのはとても良いアイデアだと思います。</p> <p>学生がボランティア活動に参加すると、学生側は就職活動の際にPRできる実績となり、高齢者側は操作方法が理解でき、若者と交流することができます。</p>
福井委員長	<p>それでは、よろしいでしょうか。</p> <p>大変活発な意見交換ができました。ありがとうございます。</p> <p>以上で、本日の議題は終了いたしました。最後に、次回の委員会の開催日について改めて確認させていただきます。</p> <p>本年度につきましては、今回で最後となる予定です。次回は令和7年度の開催となりますが時期については未定となりますので、今後、日程調整して開催日が確定した際は、開催通知を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の委員会を閉会とさせていただきます。</p>